



営農NEWS



出穂前の穂ばらみ期頃に降雨日が多い気象予報となったら、いもち病や稲こうじ病の防除を行いましょう

今年は梅雨入りが平年並で、梅雨明けが6月29日だった昨年に比べると梅雨らしい降雨日が続いています。

今後、水稻の収量や品質に大きく関与する重要病害の穂いもちの発生は、出穂前後の降雨と葉いもちの発生状況が、また、稲こうじ病の発生は、穂ばらみ期（出穂14～10日前頃）の降雨が大きく関係するとされています。

気象1ヵ月予報（6月27日発表）では、今後は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想しています。また、県病害虫防除所「病害虫発生予報7月号」によると、7月のいもち病（葉いもち）発生量は平年並～やや多いと予想しています。

7月中旬には「あきたこまち」が、また、「コシヒカリ」も7月下旬～8月上旬には出穂期になりますので、穂ばらみ期～出穂期に降雨日が多くなると気象予報されたら、穂いもちや稲こうじ病の発生に注意が必要となります。

特に、穂いもちによる減収がときどき発生する谷津田や中山間地域、また、過去に稲こうじ病の発病が多かった水田などでは、下記を参考に薬剤の予防散布に努めてください。

1 いもち病

穂首いもちは、出穂直後から10～15日後くらいまでに感染すると被害が大きくなります。その後20～25日目くらいまでは収量に影響する被害が発生する恐れがあり、枝梗いもちや籾いもちでは、さらに感染期間が長くなります。

穂いもちの主な伝染源は葉いもちの病斑で、止葉以下3葉目までに病斑がある場合には、特に注意が必要です。

葉いもちが多発生していて、出穂前～出穂以降の天候が不順と予想される場合は、出穂期前に予め粒剤等を本田に散布（薬剤により効果発現までの期間が異なりますので、使用時期を確認）して、発病を長期に防除する必要があります。

表1 水稻 穂いもちの主な防除薬剤 (令和元年7月1日現在)

薬剤名	希釈倍数または施用量	使用時期 / 使用回数	分類
コラトップジャンボP	小包装(パック) 10～13個 (500～650g) / 10a 投入	出穂 30～5日前まで / 2回以内	16.1
フジワン粒剤	3～5kg / 10a (湛水散布)	出穂 10～30日 (収穫 30日) 前まで / 2回以内	6
キタジnP粒剤	3～5kg / 10a	出穂 7～20日前まで / 2回以内	6
ルーチン粒剤	1kg / 10a (湛水散布)	収穫 30日前まで / 2回以内	P3
オリゼメート粒剤	3～4kg / 10a	出穂 3～4週間 (収穫 14日) 前まで / 2回以内	P2
ブラシフロアブル	1,000倍	収穫 7日前まで / 2回以内	U14 と 16.1

注1) 粒剤は、水田が水深3cm以上で均一に散布し、3～4日は湛水状態を保ち、散布後一週間は落水、かけ流しを避けてください。

注2) 分類欄には、FRACコードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

2 稲こうじ病

伝染源は前年の被害籾にできた厚膜胞子（耐久性の高い胞子）あるいは菌核とされ、被害残渣や土壌上で越冬したものが発芽し、飛散して穂ばらみ期頃にイネに感染するとされていますが、詳細については不明な点が多いです。

感染時期の穂ばらみ期頃に、降雨が多くて気温が低いと多発生する傾向があります。

本病が発生すると登熟歩合の減少や千粒重の低下、青米などの増加がみられ、等級の低下や規格外となって、大きな経済的損失となります。特に、採種用水田においては、防除を徹底して発病を防ぐ必要があります。

<防除対策のポイント>

- 窒素の過剰施用や遅い追肥は、発生を助長するため、適正な肥培管理に努めます。
- 薬剤防除として、出穂20～10日前が防除適期です。幼穂を確認するなどして、防除時期が遅くならないようにします。なお、防除適期を過ぎると効果の低下や薬害発生の懸念が生じますので、必ず適期防除に心がけましょう。
- 収穫期に発病籾が観察されたら、可能な限り取り除き、健全籾に混入させないようにします。また、収穫作業は籾が十分乾燥してから行い、発病田と無発病田の作業を分けて行うなど、選別や混入防止を徹底しましょう。

表2 水稻 稲こうじ病の主な防除薬剤 (令和元年7月1日現在)

薬剤名	希釈倍数または施用量	使用時期 / 使用回数	分類
Zボルドー粉剤DL	3～4kg / 10a	出穂 10日前まで / -	M1
ドイツボルドーA	2,000倍	出穂 10日前まで / -	M1
トップジンMゾル	1,000倍	収穫 14日前まで / 3回以内	1
モンガリット粒剤	3～4kg / 10a (湛水散布)	収穫 45日前まで / 2回以内	3

注) 粒剤処理は、出穂3～2週間前とし、上記表1の注意事項を守ります。モンガリット粒剤の収穫前日数が長いので注意してください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040